

小児がんを知り いのちの大切さを 学校で学ぼう



年 組 番 名前

はじめに

あなたは、「小児がん」と言う病気を知っていますか？
「小児がん」のケイコちゃん（小学生）とマイさん（中学生）の
実話をご紹介します。

もし、自分だったらどうしただろうと想像してください。

そして、小児がんを知り、「いのちの大切さ」を考えてみましょう！

目次

① ケイコちゃんのお話 ～「学校にいきたい」	3
② 「小児がん」について	4
③ 小児がんを克服したマイさんのお話 ～「みなさんの優しさが、私の命を助けてくれました」	8
④ 心のタイム	11
⑤ いのちのメッセージ	12
⑥ これから私	13
⑦ 「がん」について（参考資料）	14
⑧ 「小児がんを知り いのちの大切さを 学校で学ぼう」 プロジェクトについて	15

1. ケイコちゃんのお話 ~「学校にいきたい」

ケイコちゃんは、小児がんという病気で 三歳のときから入院しています。

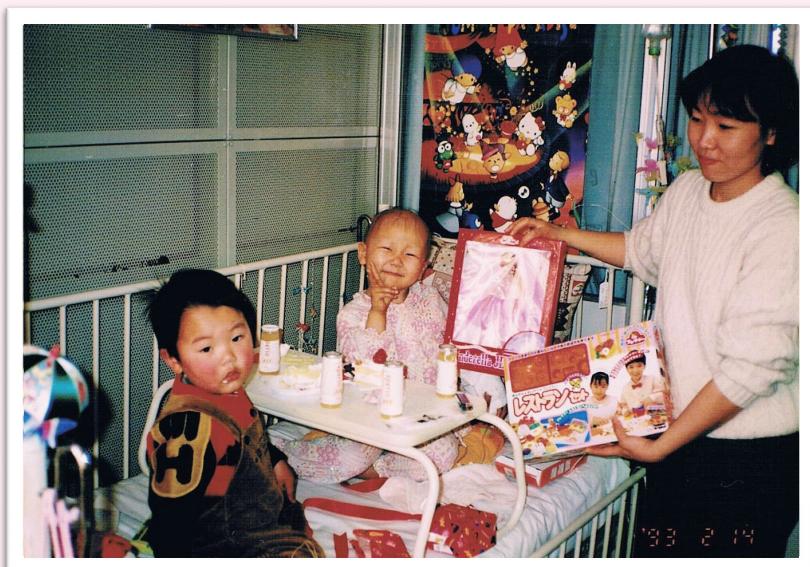
髪の毛は、薬のために抜けて、一人で歩けなくなってしまいまし
た。でも、車イスを動かして小学校に行きました。

「ケイコちゃん～」。お友だちや先生が声をかけてくれます。

「みんな優しいよ。学校、楽しい。お勉強、がんばらなくちゃね」
ケイコちゃんは笑顔いっぱいです。

一日でも長く、大好きな学校に行けますように。見守るお母さん
は願いました。

* 絵本「6さいのおよめさん」から一部抜粋



病室のケイコちゃん、お母さん、弟のコウちゃん

2. 「小児がん」について

- ・この後、ケイコちゃんはどうなるでしょうか？

- ・日本では、何人に一人が「がん」になるでしょうか？

- ・毎年、新たに何人の子どもが「小児がん」になるでしょうか？

■ 子どもにも「がん」がある

- ・小児がんとは、十五歳未満の子どもの「がん」の総称。
- ・病名は、白血病、リンパ腫、脳腫瘍、神経芽腫、骨肉腫、網膜芽細胞腫など。
- ・一万人に対して約一人が発症する。
- ・毎年、新たに約二千五百人の子どもが発病している。
- ・発病原因は、現在、よく分かっていない。
- ・周りの人に感染したり、必ずしも遺伝したりするものではない。

■ 小児がんは、70～80%は治る病気である

- ・主な治療方法は、化学療法（薬）、手術、放射線治療がある。
- ・治療の副作用として、脱毛、免疫力や体力の低下などがある。
- ・小児がんの治療のため、心身に長期的な影響を及ぼす場合もある。

■ 周りの人の正しい理解、サポートが大切である

- ・治療（入院・通院）や経過観察をしながら、学校生活をすることも多い。
- ・治療中、及び治療後に、学校を休む、体育の見学、感染症にかかりやすいなどの制約もある。

■ 「がん」は身近な病気である

- ・大人は、二人に一人が「がん」になる。
- ・予防法、検診、治療法なども進歩している。
- ・治療をして、いつもの生活や仕事に戻る人もたくさんいる。

ケイコちゃんのお話（続き）～「学校にいきたい」

今日は、看護師さんの結婚式です。

みんな知っていました。

ケイコちゃんは、お嫁さんが大好きだということ。

そして、あと数か月で天国にいくことも知っていたのです。

「きれいだね。わたしも早く、お嫁さんになりたい」

ケイコちゃんは、ブーケをもらって嬉しそうです。

ケイコちゃんの病気は、一日一日と悪くなっています。

もう自分でベッドから起きられなくなりました。

でも、気分が良くなると「宿題するから起して」と言います。

「先生が、宿題やろうねと言っていたよ」

ケイコちゃんは、ノートを押さえることさえできません。

少し書いては、「はあ」と小声を出しながら続けます。

「もうがんばらなくていい」。お父さんは何度も思いました。

夏の日。ケイコちゃんは、たった一人で天国に旅立ちました。
六歳でした。

お父さんとお母さんの大きな泣き声が、部屋の中にひびきます。
病気を治せずにごめんね。悲しくて涙がとまりません。
ケイコちゃんとお別れのときがきました。
お母さんは、ケイコちゃんに白いドレスを着せて、かつらとリボンをつけて、ブーケをもたせます。ケイコちゃんが大好きだったお嫁さんにしてあくりました。

ケイコちゃんは、小さな白い箱になってお家（うち）に帰ってきました。

ケイコちゃんに会いたい。でも、もう会えない。
お父さんとお母さんは、ケイコちゃんを思い、何度も何度も涙を流しました。

* 絵本「6さいのおよめさん」から一部抜粋

心のタイム

- ・ケイコちゃんに感じたこと

3. 小児がんを克服したマイさんのお話 ～「みんなの優しさが、私の命を助けてくれました」

私は、小児がんになり、小学校六年生から中学二年生まで病院で治療をしました。中一の頃は、ほとんど学校に行けませんでした。

帽子をかぶり、マスクをして、ガリガリにやせた私に、先生や友達は「普通」に接してくれました。

中一のとき、学校で七夕の短冊をつくりました。私は「世界中から病気がなくなりますように」と書きました。

すると、友たちが「マイちゃんの病気が早く治りますように」「マイちゃんと遊べますように」と書いてくれました。

中二の秋。治療が終わり学校に行くと、教室に飾りつけがしてありました。「おめでとう」とクラスの友だちがパーティーをしてくれました。涙をこらえるのが必死でした。私は、この世で一番幸せ者だと思いました。

病気は怖いし、小児がんの治療は苦しく辛かったです。その治療の影響で、足の骨の細胞が一部死んだり、バセドウ病の治療もしています。

でも、病気になって気づいたこともたくさんあります。普通に生活できること、学校に行けること、みんなと遊べること、家族が一緒にいること、それだけで私は幸せです。

そして、たくさんの人私を支えてくれました。病院の先生、看護師さん、学校の先生や友だち、家族、名前も知らない輸血をしてくれた人。

みなさんの優しさが、私の命を助けてくれたのだと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

私は、今、大学の看護学科で勉強しています。

入院中、看護師さんがいつも優しくしてくれました。みなさんに助けていただいたこの体で、難病と闘う子どもたちの役に立つ看護師になるのが私の夢です。



闘病中のマイさん



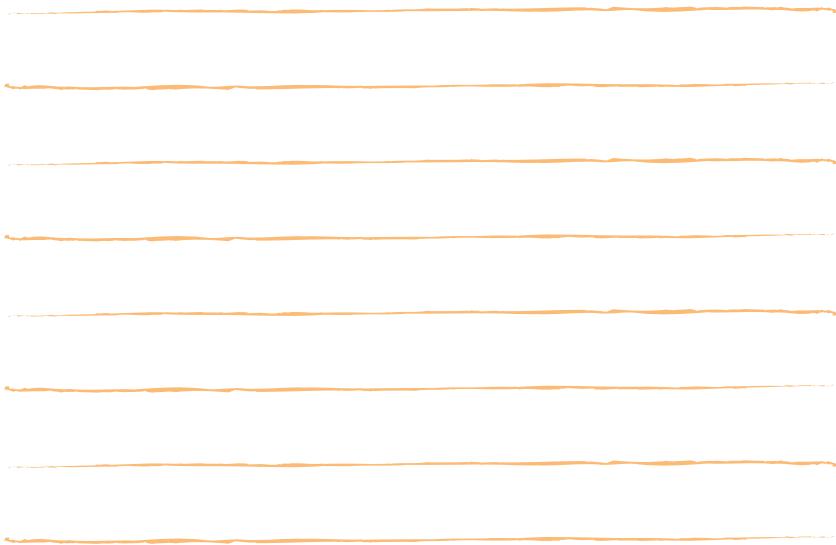
看護師を目指すマイさん

心のタイム

- ・マイさんに感じたこと

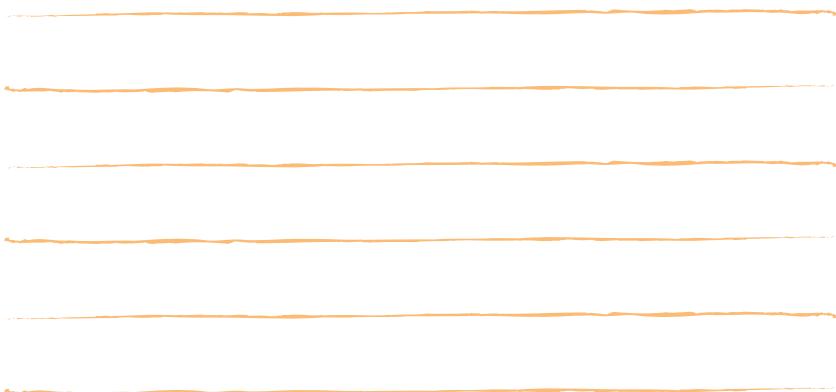
4. 心のタイム

★ケイコちゃんとマイさんの二人から
あなたは、何を大切にしたいと思いますか？



Handwriting practice lines for the first question, consisting of seven horizontal orange lines spaced evenly down the page.

★ 「いのち」って、何だろう？



Handwriting practice lines for the second question, consisting of seven horizontal orange lines spaced evenly down the page.

5. いのちのメッセージ

限りがある 「いのち」

愛されている 「いのち」

支えられている 「いのち」

かけがえのない 「いのち」

つながっている 「いのち」

自分だけのものでない 「いのち」

大切な自分の 「いのち」、大切な友だちの 「いのち」

あたりまえにある 「いのち」 は、「きせき」 なんだよ
むだな 「いのち」 なんて ひとつもないんだよ

だから「生きる」んだ



* 単行本「6歳のお嫁さん」から抜粋

6. これからの私

This image shows a blank sheet of handwriting practice paper. It features ten sets of horizontal lines, each consisting of a top solid orange line, a middle dashed orange line, and a bottom solid orange line. These lines are intended for practicing the Japanese hiragana script.

7. 「がん」について（参考資料）

■ がんって何？

- ・体の中で、異常な細胞（がん細胞）が増えることで起こる病気です。
- ・2人に1人が、がんになります。3人に1人が、がんで亡くなっています。

■ がんができる仕組み

- ・人の細胞は、次々と細胞分裂（コピー）を繰り返しています。
- ・もともと体の細胞は、がんになる遺伝子を持っています。正常な細胞がミスコピー（遺伝子のキズ）を重ねると、がん細胞が生まれやすくなります。
- ・がん細胞は健康な人の体にも毎日生まれています。しかし、免疫システムも働くのでがんを退治してくれます。この働きが弱まることでがんになります。

■ がんの原因

- ・年齢を重ねると、細胞のミスコピーが増え、また、免疫力が弱まってがんになります。
- ・がんは、たばこの喫煙、偏った食生活、肥満、運動不足、飲酒など、生活習慣と関わりが深い病気です。

■ がんを予防しよう

- ・生活習慣を改善すること（バランスの良い食事、適度な運動、たばこを吸わないなど）によって、将来がんになる可能性を低くすることができます。

■ がん検診を受けよう！

- ・症状が出てくる前に、がんを早く見つけるための検査が「がん検診」です。
- ・大人になったら、がん検診を受けましょう。

■ がんの治療

- ・主な治療には、がんを手術で取り除く外科療法、薬で治したり進行を遅らせる化学療法、放射線を当てる放射線療法があります。

■ 大切な人が　がんになつたら

- ・がんになると、不安・痛み・孤独に悩まされることがあります。周りの人の支えが大切です。

8. 「小児がんを知り いのちの大切さを 学校で学ぼう」プロジェクト

■プロジェクトの思い

今、約16000人の子どもたちが小児がんと闘っています。闘病中、退院後も、周りの人の正しい理解や社会のサポートが必要です。小児がんの子どもたちにとって、学校は「生きる力」となる存在です。一方で、学校では、いじめ・自殺など、いのちを粗末にするニュースが連日報道されています。

学校において、「がん・小児がんへの正しい理解」と「いのちの授業」が進むことを願い、副教材（授業指導案、冊子、授業事例DVD）を制作してお届けします。

■副教材の発行団体（プロジェクトの共同企画団体）

◇特定非営利活動法人ゴールドリボン・ネットワーク

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-12-32-F

電話 03-3952-2640 メール npo@goldribbon.jp

<http://goldribbon.jp>

<活動内容>

- ①小児がん経験者のQOL向上のための支援
 - ・交通費等補助金制度
 - ・小児がん経験者の奨学金制度（返金不要型）
 - ・小児病棟の学習室などの整備
 - ・サマーキャンプ
- ②小児がんの治癒率向上のための研究助成
- ③小児がんの理解促進



◇特定非営利活動法人いのちをバトンタッチする会

〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南2-7-2

電話 052-581-8686 メール inochi-b@hm7.aitai.ne.jp

<http://hm7.aitai.ne.jp/~inochi-b/>

<活動内容>

- ①「いのちの授業」の開催
 - ・小中学校、高校大学、いじめ対策、PTA、人権
 - ・ゴールドリボンいのちの授業（全国公募方式）
 - ・いのちの講座（教師、医療介護専門職育成）
- ②購読誌「いのちびと」、講演録、DVDなどの発行
- ③映画「四つの空 いのちにありがとう」の上映
- ④いのちの教育の啓発



「小児がんを知り いのちの大切さを 学校で学ぼう」プロジェクト

■副教材の制作メンバー（五十音順）

- 押谷 由夫 昭和女子大学大学院人間教育学 教授
杉本 春美 愛知県西尾市立一色中部小学校 前養護教諭
杉本 幸雄 大同大学情報学部 教授
○鈴木 中人 特定非営利活動法人いのちをバトンタッチする会 代表
玉置 崇 岐阜聖徳学園大学教育学部 教授
堀部 敬三 独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター
臨床研究センター長・小児科医長
松井 秀文 特定非営利活動法人ゴールドリボン・ネットワーク 理事長
山田 貞二 愛知県一宮市立大和中学校 前校長

■引用 & 参考資料

- ・単行本「6歳のお嫁さん～亡き娘から託されたいいのちの授業」（実業之日本社）
- ・絵本「6さいのおよめさん」（文屋、サンクチュアリ出版）
- ・ドキュメンタリー映画「四つの空 いのちにありがとう」（いのちをバトンタッチする会）
- ・「がんについて考えよう」（名古屋市健康福祉局健康増進課）

■副教材データの入手、お問合せなど

- ・副教材（授業指導案、冊子、授業事例DVD）のデータは、制作＆発行団体のホームページよりダウンロードできます。
- ・お問い合わせは、事務局（特定非営利活動法人いのちをバトンタッチする会）にメールにてお願いします。 inochi-b@hm7.aitai.ne.jp



特定非営利活動法人ゴールドリボン・ネットワーク
特定非営利活動法人いのちをバトンタッチする会

2016年3月